

協同組合を介した生産と生活の主体形成
- インド・グジャラート州の女性小規模酪農協同組合の事例から -

日本福祉大学大学院国際社会開発研究科 博士後期課程

秋吉 恵*

1. 研究の目的

インドで 1960 年代に始まりミルク集荷販売量の増大をもたらした酪農開発においては、農村の小規模酪農協同組合(Dairy Cooperative Society: DCS)が生産組織として重要な役割を果たした。さらに 1970 年代後半から NGO 等が進めた女性小規模酪農協同組合(Women s Dairy Cooperative Society: WDCCS)はミルク集荷販売量の増大のみならず村における生活機能の向上をも起こしたとされる。本研究ではインド・グジャラート州の NGO 支援の WDCCS を事例として取り上げ、そこで行われた事業やミルク集荷販売量、家庭や村の生活状況について検証した。これにより、本 WDCCS の生産組織としての機能の向上と、それを通じた生活機能の向上が実現したのかについて報告する。

2. 研究の背景

(1) インドの酪農協同組合

事例とした小規模酪農協同組合の背景として、インドにおける酪農開発について説明する。インドは伝統的に各家庭で飼育する牛、水牛、山羊から生産されるミルクを蛋白源としてきたが、一方でミルクはその性質上品質維持が難しく、ミルク市場の形成は生産地近隣に留まっていた。植民地時代のイギリス人のミルク需要から、仲買人によるミルク集荷が拡大し、この仲買人による搾取への反発から小規模酪農協同組合が設立された。1970 年初頭の協同組合酪農の開始以来 30 年で、インド全国でのミルク集荷販売量は 30 倍に上昇し、これが農村でのミルク生産量の約 4 倍の増加を引き起こした。農村の DCS 組合員数も 30 倍に上昇、農村での収入向上や雇用機会の創出に寄与している(1)。

こういった協同組合酪農の成功はインド酪農開発庁(National Dairy Development Board: NDDB)の酪農政策によるところが大きい。そのひとつは農村に組織した DCS を介して近代酪農技術導入を進め組合員のミルクの生産、品質管理能力を高めたこと、ふたつにはこの DCS から消費地である都市部までミルクの品質管理システムを整備し、都市部での市場を確保したことである。

DCS の組合員はインド農村の社会規範から男性世帯主が一般的であったが、農村でのミルクの生産・品質管理は伝統的に家畜飼育を担ってきた女性の知識や技術に依存している。そのため、NDDB は女性組合員の登録を推進し、全国的に女性組合員数が増大した。これとは別に 1970 年代後半から NGO 等が進めた WDCCS の成功を契機に NDDB や中央政府人材開発省による WDCCS 組織化政策が導入され、2001 年には全国で 1 万を超す WDCCS が誕生している(2)。WDCCS はミルク販売のみならずインド農村の抱えるジェンダー格差や低い母子保健指標等の問題解決への寄与も期待されている。

(2) 自営女性労働者協会(SEWA)

自営女性労働者協会(Self-Employed Women s Association: SEWA)はインド・グジャラート州アーメダバ

* [連絡先]〒113-0033 文京区本郷 3 丁目 20-7 特定非営利活動法人 Health and Development Service 秋吉恵 Tel: 03-5805-8565, Fax:03-5805-8667, E-mail: akiyo_m@fb3.so-net.ne.jp

ードに 1972 年に設立された貧困層の女性達の労働組合である。インドにおいては公的な支援を受ける機会のない労働者、特に女性労働者はインド経済に大きく貢献しているにも関わらず、制度的な搾取を受けてきた。このため SEWA は「自ら雇用する」存在としてこれら女性労働者たちを位置付け、彼らの労働者としての権利を勝ち取るうと労働者の生活に関わる包括的な活動を展開している(3)。その活動は支援対象労働者の要望に基づき、生産技術支援のみならず、医療保険や貯蓄組合、教育事業など多岐に渡る。

設立以来、都市部の貧困女性労働者を対象として目覚しい活動を続けていた SEWA が農村部に目を向けるのは 1975 年になってからのことである(4)。農村の日雇い農業労働者の権利獲得を目指した組織化は失敗し、その教訓から SEWA は農村の労働者に最も重要なことは組織化による労働者の権利獲得ではなく、雇用の機会を創出することだと気づく。そして農村の女性達が担っている労働を雇用に結びつけるべく支援分野を検討し、そのひとつであるミルクの小規模生産者の組織化が WDCS として実を結ぶのである。

1978 年から始まる SEWA による WDCS 組織化は多くの困難の後に定着した。1985 年にはインド全国で組織化された WDCS についてフォード財団の手で調査が行われ、その調査結果がインド中央政府人材開発省女性と子供の開発局の目にとまり、全国展開への足がかりがつけられる。2003 年 3 月現在、SEWA が組織化した女性酪農協同組合は 55、組合員数は 8000 人に上る。

3. 研究方法

調査対象はインド・グジャラート州ガンディナガル県ガンディナガル郡 S 村に SEWA の支援を受けて設立された WDCS である。S 村は約 350 世帯、2500 人が暮らす農耕に従事するカーストが多数を占める混住村である。

調査方法は SEWA、ガンディナガル Union、S 村 WDCS および村の関係者へのインタビューと参与観察による質的調査法を用いた。また、ミルク集荷販売量や獣医療サービス実施状況については WDCS、Union の記録から量的データによる補強を行った。

4. 研究結果

(1) WDCS のミルク生産機能の向上

S 村では 1991 年の WDCS 設立当時には搾乳用家畜を飼育する世帯はわずかで、農耕牛の繁殖用の雌牛から搾乳したミルクを自家用に消費している程度であった。この頃 SEWA は近隣 3 県で NDDDB の酪農開発政策と共同する形で WDCS の組織化を始めていた。また 9 つの県で健康キャンプなど保健事業を実施しており、S 村からこのキャンプに参加した女性達が、近隣の村でミルク販売を通じた収入向上プログラムが実施されていることを耳にし、SEWA スタッフに自分の村での DCS 設立支援を依頼した。

要請を受けて NDDDB の酪農技術研修を受けた SEWA オーガナイザーが村を訪問し、WDCS 参加の意図をもつ女性とその家族に対して、WDCS の目的や期待される利益、ミルク生産において必要な家庭レベルでの改善について説明を行った。25 名の組合員が集まった後、委員長と管理委員 9 名を選出し Union に登録、WDCS 運営管理方法について指導した。管理委員会は書記、ミルク検査係、ミルク計量係の 3 名の WDCS スタッフとして組合員以外の女性を雇用し、SEWA オーガナイザーが各職の業務内容を教え、集荷開始後 2 週間は毎朝夕の集荷時に WDCS にて実施研修を行った。

2003 年 3 月現在、S 村 WDCS の組合員数は 225 名で、登録組合員の 70%、約 160 人がミルクを販売していた。ミルク集荷は朝夕 2 回行われ、組合員毎に品種、脂肪率、容量を測定しそこから買取り価格が決めら

れる。個々の組合員の販売量は脂肪率 5%容量 0.9L での 7.25 ルピーから脂肪率 6.1%容量 22.1L での 229.18 ルピーまで様々である。各組合員から集められたミルクはまとめて S 村 WDCS の生産物として Union に送られ値段がつけられる。Union から WDCS、WDCS から組合員へのミルク代の支払いは 10 日毎に、記録に従って行われる。

2003 年 3/28 朝の S 村 WDCS における集荷量と販売量を見ると、組合員 162 名によるミルクの集荷量は 916L で買取価格は 8210 ルピー、水牛乳の一部を乳牛を持たない世帯向けに低価格で販売し、残りは全て Union に販売した。販売総額は 9028 ルピーを超える。WDCS では買取額の算出に容積(L)を使用し、Union では重量(Kg)を使用するため、1 以上の比重を持つミルクでは設定価格は同様でも差益が生じることになる。この利益から組合コスト(集荷センターの維持費や Union へのミルク運搬車両代)や 3 人のスタッフへの給与が支払われ、余剰は組合利益として貯蓄され、年 1 回の組合員への賞与に当てられる。

S 村 WDCS の年間平均販売量は、販売先のガンディナガール Union 所属の 80 の DCS の中でも上位にある。このことはミルク生産において、女性も男性と同様もしくはそれ以上の生産主体となれることを示しているものと思われる。

(2) WDCS 活動の村の生活機能への波及

WDCS 組織化から 11 年たった S 村における生活機能は近隣農村と比べ高い傾向にある。まず、S 村では初等教育校への入学以降のドロップアウト率はここ数年減少し、特に女子で減少している。その理由として、結婚年齢の上昇や成人女性向けの教育が行われていること、女子には就業の機会がないことが挙げられた。一方、男子は市街地への就業のためにドロップアウト率は大きな減少を見せていない。また、組合員が得るミルク収入の用途は彼女達自身が決めていることが多い。その用途も家族の食料や衣類の購入や子供の教育費、治療費に当てているという。

さらに保健状況の改善も認められる。ミルクは不衛生な生活環境がその品質に影響することから、安全な水の使用、トイレの使用、家及び畜舎の清掃、搾乳時の手洗いなど、品質の高いミルクを生産するためには多くの衛生的な生活態度が求められる。これらを家庭の主婦である組合員が身につけることは家庭内の衛生環境が改善することを意味する。さらに、SEWA による健康キャンプや助産婦トレーニングなどの保健プログラムも実施されている。また、S 村には 15 人前後の女性からなる貯蓄グループがあり、このほかに WDCS 加入のために牛や水牛を購入する際の牛ローンの供与や、医療保険への加入にも Union や SEWA の支援が行われている。

つまり、S 村 WDCS に対しては、ミルクの生産に関する技術支援とともに、住民の保健・教育・生活保障を改善するための社会福祉支援、そして組織化を通して仕事への責任や自分に対する自信を獲得するための自立支援の 3 つが行われていた。女性労働者の権利獲得に重点をおく SEWA の関与により、これら 3 つの支援はほぼ平行して行われている。そしてこのことが S 村 WDCS がミルク生産組織として一定の成果をあげ、11 年活動を持続し、村の生活機能を向上させた要因であったと推察される。

5. 考察

女性はその収入を、家族の構成員の生活機能向上のために使用する傾向が強いといわれている(5)。しかし、インド農村に暮らす女性はその社会規範により、家庭内での生活の主体として力を持つことが制限されている(6)。社会規範による制限を越えて女性が世帯内での意思決定に関わるためには、収入確保とともに自らの家庭における貢献度や自分や家族にとって必要な福利を認識しなければならない(7)。S 村 WDCS を介

した生産機能の向上とその生活への波及は、WDCS 組織化前には生活の主体に為り得なかった組合員が以下3つの変化を遂げることから起こったと推察される。

ひとつには、S 村 WDCS が生産組織として成功し組織及び組合員の安定収入を確保したことが挙げられる。WDCS 組合員が経済活動の担い手としての役割を果たし、生産の主体となったのである。

ふたつめに WDCS による経済的、社会的効果が家庭に波及し、組合員やその家族の女性に対する認識を変化させたと考えられる。女性が伝統的に担ってきた家畜飼育を介してミルク収入を安定的に得たことで、女性の労働が自他ともに評価されることになった。これにより、女性の家庭における財源配分決定への参加が可能となり、その用途は生活機能の向上に向けられた。つまり、組合員が家庭構成員として家族の生活を向上させる役割を果たし、家庭における生活の主体となったと考えられる。

三つ目に家庭の生活機能の向上が地域の生活に波及している可能性が示唆された。村の 7 割の家庭での女性の家庭内意思決定への参加や集荷センターという住民参加の場の構築、ミルクの村内住民への低価格販売や SEWA や Union など外部との連携が地域に与えた影響は大きい。つまり WDCS や組合員が地域に根ざした組織、地域の住民として村の生活機能を向上させる役割を果たし、地域における生活の主体となりつつあると考えられる。

6. 結論

本研究により、S 村における生活機能の向上は、女性が WDCS 活動を通じて生産の主体として自他共に認められ、生活の主体としての機能を発揮できるようになったことによるものであり、WDCS による生産機能向上の利益が生活に波及したためと結論づけられる。それには SEWA を触媒として外部との連携がなされたことや、WDCS が女性が伝統的に担ってきた産業の機能向上を目的とした生産組織であったことが、重要な要因であったと推察される。

7. 参考文献

- (1) NDDB (2002) "NDDB annual report & NDDB-Heralding Changes" NDDB
- (2) 中里亜夫(2003)「インドにおける家畜飼育変動の諸要因に関する研究」p105 科研費研究報告書
- (3) 甲斐田万智子(2001)「北西インドの自営女性労働者協会 - 最貧困女性のエンパワメント-」149-174 西川潤編『アジアの内発的発展』藤原書店
- (4) Chen M. and Dholakia A. (1986) 'SEWA s Women s Dairy Cooperatives, A Case Study of Gujarat' p70-106 " Indian Women" Shakti Books
- (5) モーザ・キャロライン O.N.(1996) 『ジェンダー、開発、NGO』久保田賢一・久保田真弓訳 新評論
- (6) Agarwal B.(1997) "Bargaining" and Gender Relations: Within and Beyond the Household p1-51 3(1) *Feminist economics*
- (7) Sen A (1990) Gender and co-operative conflicts in I Tinker (ed), "Persistent Inequalities" Oxford University Press